

## 学長の業務執行状況の確認結果について

2017年4月27日

跡見学園女子大学学長選考委員会

委員長 磯貝政弘



跡見学園女子大学学長選考委員会規程第11条に基づき学長の業務執行状況の点検・評価を行いましたので、その結果を報告します。

なお、この調査は、学長の任期途中から新しく制定施行された規程によるものであり、本来学長においては予定されていないことを実施する結果となりました。これは委員会として、今後学長任期の途中、二年目の終わりに行うとか、のルール化をすべきかと思いません。しかし、今回は委員会としても経験を積む意味で、実施させていただきました。そのような事情にもかかわらず、かつ学年末の諸事多忙な時期であるにもかかわらず、資料提供やインタビューなど快く協力していただき、感謝いたします。

### 記

点検の結果について、確認内容を以下3項目に整理した。

#### 1. 2016年4月における全学教員集会「学長施政方針」関連

○外国語教育センターの設置は文京キャンパス隣地の取得に関わる施策とのことであり、その過程が終わるまで不透明な部分が残るが、人的な拡充は着実に進めている。

#### 2. 2016年12月における全学教員集会関連

○公認心理士の国家資格化に伴い臨床心理学科を届け出申請によって学部にするよう準備を進めている。

○コミュニティデザイン学科の定員割れ問題に関して、定員の削減あるいは観光コミュニティ学部二学科の統合という見解を示した。

○文学部の学科再編に関する見解は、今後の環境の推移を見守る必要から、今は公にする段階ではない。

### 3. 日常業務

○大学の学長と学園財務担当理事を同一人物が務めることは利益相反の問題があることは充分認識している。

○跡見学園中高の大幅な定員割れによる巨額な収入減を大学側から補填することは考えていないが、厳しい状況を迎えていることは事実である。

いずれも説明を得れば肯定的に評価し納得できることではあるが、十分に教員間にその意図が了解されているとは、言い難い。それは思わぬ不満につながりかねないと危惧する。したがって、委員会として

- ① 学長施策として打ち出したことについては、その進行経過などについても十分な説明を行い、理解を得る努力をすること。
- ② 諮問機関などを設置する場合は、その適切な活用を心がけ、リーダーシップを発揮し学長自身の判断を率直に打ち出し、その説明をしたうえで、大胆に実行すべきこと。
- ③ 全学教員集会においては、まず学長施策につき説明を尽くし、併せて学園全体の状況に話を進めるなど、職責によるバランスを失わないこと。

の3点を要望する。

以上

これが今回の評価の主旨ですが、併せて委員会の議論で外部委員から指摘された点を、特にここに紹介しておきたいと思います。まず、現今、大学は様々困難な状況に置かれていることから、改革は何よりスピード感を以て迅速に行うことが肝要であるとの指摘がありました。学長自身の強力なリーダーシップのもと、果断に改革を進めることは問題とするに当たらないだけでなく、最も必要なことであるとの指摘と理解しました。同時に、教授会の自主性を重んじた、これまでの大学のカルチャーともいえるべき面は、やはり尊重すべきところでは尊重するよう配慮を望む、との趣旨と理解できる意見もありました。まさに学長にとって、この二つの面のバランスをとることは永遠の課題ともいえるかと思いますが、賢明な運営を期待いたします。

再度ご協力に感謝し、残りの任期も存分に活躍してくださるよう、祈念いたします。